

6月の実践

生活科：『がっこう だいすき』

めあて：通学路探検で見つけた 安全を守るものを 伝え合おう

<主な学習活動>

- ① 通学路を実際に歩いた共通体験をもとに、本時は、どんなものを見つけたか、伝え合う。
- ② 友達の発表を聞き、気付いたことや思ったことを話す。

★教師の準備：通学路の様子を撮影した写真資料の提示
★教師の発問：「安全を守るもの」という言葉での焦点化

- ③ 通学路の様子に関心をもち、標識など安全を守るものや施設、人々に気付く。
- ④ 見つけた標識や気になる標識を絵や言葉で表す。
- ⑤ 自分の通学路の様子に関心をもち、標識等を守って安全な登下校をしようとする。



○ 幼児教育においては、四季を通した園外保育活動によって身近な事象への関心を高めている。こうした経験が、児童の主体的な発見や確かな理解の基盤につながっている。

C：足の形があって、「とまれ」と書いてありました。

T：誰が止まるのでしょうか。

C：ぼくたちが止まります。そこに来たら止まって、よく見て通るってこと。

T：皆の「安全」を守るための標識をたくさん見付けましたね。でも、見付けるだけではだめで、守ることが大切です



C：「こども 110 番」もありました。

C：僕の家のお店にも同じ絵があります。

T：何のためにあるのでしょうか。

C：守ってくれるためです。

T：皆の安全を守ってくれる人がいて、うれしいですね。

【この学習で見られた児童の姿】

- 「とまれ」のマークには歩行者用と車両用があることや、看板タイプや地面に書いてあるものなどがあることに気付いていた。また、それらは自分たちの安全を守るために必要なものであることにも気付いていた。
- 「鏡や緑の線もありました。」と発表すると、教師が「カーブミラー、グリーンベルトと言います。」と標識の名前を知らせた。すると、「鏡は2つ、付いているよ。」「家の近くにもあるよ。」等、自分の生活と関連付けて伝えていた。
- 「マークがあるから、ここは危ない場所だということが分かった。」「マークを見付けられてよかった。」と振り返りカードに書いたり、「今度から止まれのマークを見付けたら安全に気を付ける。」と話したりし、自分の生活に生かそうとする姿が見られた。



本單元における
言語活動

活動の振り返りをする
場面で、自分の思い
や気づきを簡単な絵や
言葉で表そうとする。

